

集合論 (第9回) の解答

問題 9-1 の解答

(1) $f: \mathbb{N} \rightarrow Y$ ($n \mapsto 1 - n$) は全単射. よって $\mathbb{N} \sim X$.

(2) $f: \mathbb{N} \rightarrow X$ を

$$f(n) = \begin{cases} 3k - 2 & n = 2k \text{ のとき,} \\ 3k - 1 & n = 2k - 1 \text{ のとき} \end{cases}$$

で定めれば, f は全単射. よって $\mathbb{N} \sim X$.

(3) $f: I \rightarrow \mathbb{R}$ ($t \mapsto \log t$) は全単射. よって $I \sim \mathbb{R}$.

□

問題 9-2 の解答

$f: \mathbb{N} \times \mathbb{N} \rightarrow \mathbb{N}$ ($(m, n) \mapsto (2m - 1)2^{n-1}$) が全単射を示す.

(i) 単射性. $(m_1, n_1), (m_2, n_2) \in \mathbb{N} \times \mathbb{N}$ が $f(m_1, n_1) = f(m_2, n_2)$ を満たすとする.

$$(2m_1 - 1)2^{n_1-1} = (2m_2 - 1)2^{n_2-1} \quad (\text{eq1})$$

で, $2m_1 - 1, 2m_2 - 1$ は奇数より, $2^{n_1-1}, 2^{n_2-1}$ の 2 で割れる回数は等しい. よって $n_1 = n_2$.
また (eq1) から $m_1 = m_2$. よって f は単射.

(ii) 全射性. $x \in \mathbb{N}$ とし,

$$x = y \times 2^z \quad (y \text{ は奇数, } z \text{ は } 0 \text{ 以上の整数})$$

と表す. ここで, $(m, n) = (\frac{y+1}{2}, z+1)$ と置くと,

$$f(m, n) = y \times 2^z = x$$

よって f は全射.

従って $\mathbb{N} \times \mathbb{N} \sim \mathbb{N}$.

□

問題 9-3 の解答

A が可算集合と仮定すると, 全単射 $f: \mathbb{N} \sim A$ が存在する. $f(k)$ ($k = 1, 2, \dots$) を整数 $x_{kj} \in \{0, 2\}$

を用いて次のように表す.

$$\begin{aligned} f(1) &= (x_{11}, x_{12}, x_{13}, \dots, x_{1n}, \dots) \\ f(2) &= (x_{21}, x_{22}, x_{23}, \dots, x_{2n}, \dots) \\ f(3) &= (x_{31}, x_{32}, x_{33}, \dots, x_{3n}, \dots) \\ &\vdots \\ f(n) &= (x_{n1}, x_{n2}, x_{n3}, \dots, x_{nn}, \dots) \\ &\vdots \end{aligned}$$

ここで,

$$y_k = \begin{cases} 2 & x_{kk} = 0 \text{ のとき,} \\ 0 & x_{kk} = 2 \text{ のとき} \end{cases}$$

と置くと, $y = (y_1, y_2, \dots, y_n, \dots) \in A$ となる. $f: \mathbb{N} \rightarrow A$ は全射なので, $f(m) = y$ となる自然数 m が取れ,

$$(x_{m1}, x_{m2}, x_{m3}, \dots, x_{mm}, \dots) = f(m) = y = (y_1, y_2, y_3, \dots, y_m, \dots)$$

特に $x_{mm} = y_m$. しかし, y_m の定義から x_{mm} と y_m は異なるので矛盾. よって A は非可算集合. \square